

Mizuho Bangkok Daily Market Report

Dated of 2021/12/21

Forex

	Close	CHANGE
USD/THB	33.60	0.24
JPY/THB	0.2957	0.0025
USD/JPY	113.61	-0.02
EUR/THB	37.90	0.42
EUR/USD	1.1279	0.0039
USD/CNH	6.383	-0.005
SGD/THB	24.58	0.20
AUD/THB	23.90	0.13
USD/INR	75.91	-0.17
USD Index	96.55	-0.01

Bond

	Close	CHANGE
5Y (THB)	1.207	-0.021
10Y (THB)	1.860	-0.032
5Y (USD)	1.167	-0.008
10Y (USD)	1.423	0.020

Commodity

	Close	CHANGE
GOLD	1,793.7	-10.1
WTI (Oil)	68.23	-2.63
Copper	9,446.5	9.0

Stock

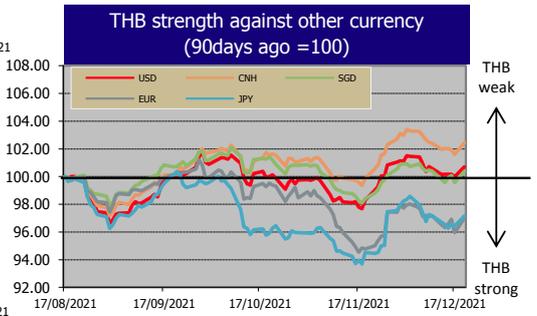
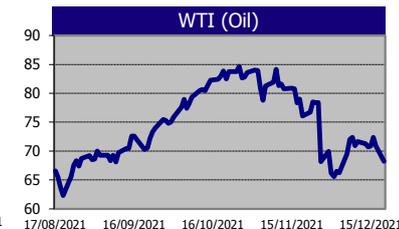
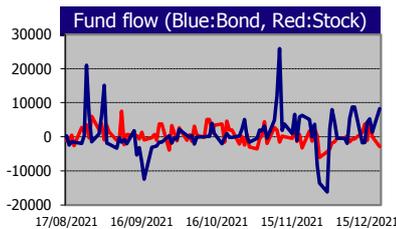
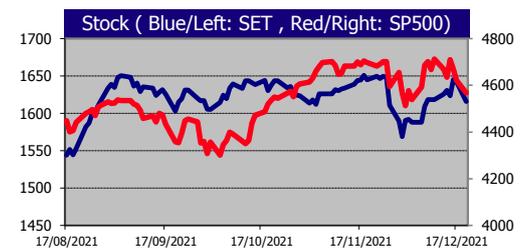
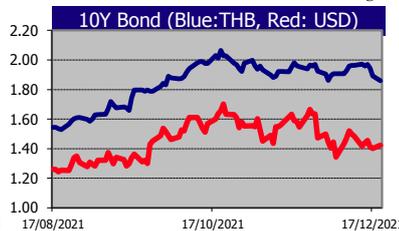
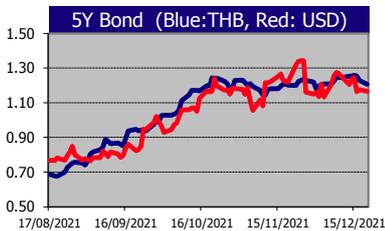
	Close	CHANGE
SET (TH)	1,615.80	-25.93
NIKKEI (JP)	27,937.81	-607.87
DOW (US)	34,932.16	-433.28
S&P500 (US)	4,568.02	-52.62
SHCOMP (CN)	3,593.60	-38.76
DAX (GER)	15,239.67	-292.02

Fund Flow (Overseas Investors)

	Close	CHANGE
Stock net flow	(2,905)	-2889.9
Bond net flow	8,289	6940.6

*compared with previous day

(Source: Bloomberg)



Yesterday's market summary

●ドルパーツ

●昨日のドルパーツは大きく上昇。バンコク時間は33.40近辺でオープン。朝方はフロー主導と思われる大口の買いからドルパーツは値幅を伴って上昇し、33.55近辺まで上昇。各国でオミクロン株の感染拡大が広まりつつある中、タイでもオミクロン株の市中感染が確認され、オミクロン株の感染は63人まで増加。タイでは中国製ワクチンの摂取割合が高く、中国製ワクチンはオミクロン株への効果が低いとの研究結果も見られる中、CCSAが外国人観光客 (Test & Go 対象) に対する隔離免除の一時停止を検討するとネガティブな発表したこともあり、ドルパーツは一段と上昇。結局33.60近辺まで値を上げてクローズした。

●ドル円その他

●昨日のドル円は横ばい推移。東京時間は113.55円近辺でオープン。週明けのマーケットは各国でオミクロン株の感染拡大が続き、リスクオフモード色の展開。日経平均は28,000円を割り込み、WTI原油価格も70ドルを下回るなど、各市場で全面安の様相を呈し、ドル円もリスク回避的に113.35円まで下落。しかし、為替市場についてはクリスマスを控えて閑散モードも色濃く、その後は値を戻し、結局113.65円近辺でクローズした。

Bangkok Dealer's Eye

気がつけば2021年も残り2週間弱ということで、まもなく2022年を迎えるわけですが、コロナの収束が見通せない年末を迎えるシナリオになるとは、1年前は予想できず、コロナウィルスがアルファ株→デルタ株→オミクロン株と移り変わってきたことを鑑みると、来年度についても明確な収束というのは難しいことが予想されます。タイにおいては、この1年間でワクチン接種率が国民の6割程度まで進み、市中の国内新規感染は4,000人程度で横ばい推移しています。日常生活を送る中、普通に考えればコロナ感染は収束していない状況ですが、タイ国内でのワクチン接種が進むことによってタイ人の不安心理は大きく後退し、実感的にはコロナ前の生活にかなり近づいてきた雰囲気です。パーツ水準という面では、外国人観光客がコロナ前のピーク時から9割超減少しているということもあり、ドルパーツは33台後半で高止まりしていますが、12月FOMCを迎えテーパリングの加速及び利上げ前倒しシナリオを進められた状況においても34ドル台へ到達しなかったことを考えると、更なるパーツ安を見込む市場参加者は減少している印象です。タイは、明日22日に年内最後の政策委員会 (MPC) を迎えますが、こちらの会合では現行どおり政策金利は0.50%に据え置かれることが予想されます。米国が利上げに近づくと一方、タイ中銀は利上げへの道筋を示していませんが、足元のタイCPIについては、タイ中銀が目標とする1.00%-3.00%のレンジに収まっていることから、政策変更は当面見送られることが予想されます。2022年の市場テーマとしては、インフレ高進が落ち着く中で、米国が利上げペースを緩めないかという点に関心が集まるとは思いますが、そのシナリオに焦点が当たり始めたタイミングにおいては、2021年に大きく下落した通貨の買戻しが進む展開が予想されます。タイ経済の先行きについては不透明感が拭えないものの、来年度の輸出サイドのヘッジについては淡々と勤めることの重要性を感じる今日この頃です。(橋)

The report is prepared for the sole purpose of information only. It is not an invitation to trade. The writer's view expressed herein would not be substituted for the exercise of rational judgement by the recipients.